

一本杉通信

2018.8.3
猿橋学区ふるさと
交流実行委員会

volume 4



田んぼにかかる虹 場所：泉沢 (撮影A.T)

平成29年7月、猿橋学区ふるさと交流実行委員会が、『ふるさと交流を深めたい』と手探りで始めた情報誌「一本杉通信」は、色々な方からご協力頂き、まる1年となりました。今回第4号を皆さんにお届けする運びとなり、大変な難うございます。

今回は、今年から田んぼで栽培を開始したワラビの話題や、懐かしい猿橋、長瀬野旧小学校舎の写真も掲載しております。ビニールマルチを張って穴を開けた所にポット苗を移植して育てているワラビは2年後の収穫が楽しみです。

実行委員の想いを載せた本誌を見て頂き、郷愁のひと時を感じて頂くとともに、大切な故郷にぜひ足を運んではいかがでしょうか!!

みなさん
お元気ですか？



実行委員会
委員長 高橋 久雄

一本杉通信 Vol.4 2018年8月3日発行 発行者/猿橋学区ふるさと交流実行委員会 事務局/西和賀町ふるさと振興課 岩手県和賀郡西和賀町川尻 40-40-71 TEL: 0197-82-2111

猿橋学区からのお知らせ

みなさんぜひ！
ご参加ください！
お待ちしております。

- 8月13日(月) 日本一小さな花火大会【長瀬野】
- // 夏祭り【泉沢】
- 15日(水) 盆踊り【長瀬野】
- 19日(日) 敬老会【長瀬野】
- 26日(日) 敬老会【猿橋】
- 9月2日(日) 敬老会【泉沢】



出身者からのお便り

本誌を読まれた出身者の方からの声を一部ご紹介します。

「楽しみに拝見している1人です」 猿橋出身 中学校昭和45年卒 匿名さん

高齢の母が猿橋で生活している為、地域の皆様にお世話になっています。まだ、私も仕事をしており中々帰省できず申し訳なく思っています。

年に2から3回、猿橋を訪れていますが、近所は空き家が多く寂しく感じております。民家を利用した、猿橋の活性化に繋がればと思います。弁天橋を中心とした四季折々のイベントはいかがでしょうか。

春 桜祭り・蛍祭り 民家宿泊 夏 釣り キャンプ 川遊び 民家宿泊
秋 もみじ祭り・きのこ祭り・いも掘り 民家宿泊
冬 雪遊び 民家宿泊 イベント会場には地元の食物販売 皆様の今後の更なるご活躍をご祈念申し上げます。

「一番印象に残ったのは懐かしい写真」 猿橋小昭和36年卒 高橋正博さん

「猿橋小学校区ふるさと交流実行委員会」の発足に伴い、実行委員の皆様大変ご苦勞様です。また、「一本杉通信」のご送付、ありがとうございました。企業戦士で、たまに帰省できなかった私ですが、今は、年間を通して足繁く帰省しています。あの信じ難い豪雪の村で過酷な生活を強いられ、嫌な思い出も沢山あります。が、今では「ふるさと」が懐かしく心の中に強く息づいています。この健康な体も、あの環境の賜物と感謝すらしています。

田舎を思い出す時は、やはり何と言っても、同級生の顔と近況はいかに…。心が馳せます。もう既に7人の友がこの世を去りましたが、同級生に逢いたい！！そんな思いが年一回の一泊旅行が本当に楽しみです。田舎に帰ると必ず行くのが「弁天島」です。帰ってきた挨拶に行くんです。水泳ぎ、ガラス箱とヤスでのカジカ獲り、ザッコ突き etc…小さい頃の最高の遊び場でした。公共工事等の環境があまりにも激しく変化し、心が揺れ動きますが、なんとも素晴らしいんです。岩場に座っていると昔の思い出が次から次と浮かんできます。田舎を離れた皆さんが心に持っている「ふるさと沢内」は素晴らしい「心の宝物」です。

本情報誌は、地域の出身者や所縁のある方にお送りしています。まだ、届いてない方がありましたら、ご住所をお知らせください。バックナンバー含め、お送りいたします！

編集者





弁天地区からのおたより

昔すごした田舎は今

弁天公民館館長 高橋 初夫



一本杉通信によせて、弁天地区の今の様子を少し紹介したいと思います。

弁天区の1年最初の行事は新年交賀会。最近では不幸な出来事が数件続いたりすると、断念せざるをえない年もあるが、一献傾けながら近況を語り合った、情報交換が行える楽しい行事の一つである。

次は第3号でも紹介されていた新年書き初め。小学生のみならず中学生までもが参加して、親御さんとともに数時間没頭する。それと共にだれそれちゃんのお父さんお母さんを覚えて帰る子供等。親は自分等の子供の成長ぶりを改めて感じるひと時となる。

その次には「雪あかり」西和賀への参加。これは七内地区農地・水環境保全管理組合と弁天地区の小中学校が、1日がかりで完成させるプロジェクトである。夕方辺りが薄暗くなり、空の色が紺色に変わる頃、町中の点灯式が始まり、我が弁天の見事な作品も白い雪の壁に浮かび上がります。

そして、地区最大の催し物が、9月の初めに催される敬老会である。移動する事が困難な方や長時間の歓談が苦になってきた方のために、移動方法やら時間設定を調整して、束縛しない敬老会にしております。ここでも小中学生による出し物、地区内からの三味線の演奏、弁天区長

による出し物。そんな会を陰で勢力的に支えてくれているのが、現在9名程で頑張っている弁天地区婦人会です。

婦人会は、年に2回あるマラソンの給水係、消防出初め式など過酷な行事にも率先して裏方として参加。1年の締めくくりは、総会と称して八食センターやら赤い風車やら。これがまた楽しそう。

特筆するようなことはないわけですが、それでも未だに晩酌の肴の鍋を片手に行き来したり、「今日少しおかずを作りすぎたから食べてすける」とかいう風景があるのが、弁天です。「近くまで来たら弁天さも遊びさ寄ってみてける。」

猿橋学区の若い世代

猿橋在住
【^{すけまつ}祐松さんの孫・^{まさつぐ}正受さんの長男】

高橋 和也さん (38)

猿橋小学校、沢内中学校、西和賀高校を卒業後、岩手県立大学社会福祉学部に進学。卒業後、社会福祉法人潤沢会ワークステーション 湯田・沢内に就職して勤続15年。



— 今の職に就いたのは何故ですか？

もともと地元で働きたいと思っていました。西和賀町(旧沢内村)は、医療、福祉の取り組みに力を入れてきたということもあり、自然に意識があったのかもしれない。高校生の時、進路相談で岩手県立大学社会福祉学部への推薦を受けて進学しました。卒業後は地元に戻り、障がい者施設ワークステーション湯田・沢内に就職し、現在に至っています。

— 今のお仕事はどうですか？

介護等もありますが、一般就労を目指す障がい者の作業訓練や、生活訓練も仕事の一つです。地域特性を生かした農業や農産加工に取り組んでおり、農家や企業との関わりも多く、地域の

中で仕事をしているという実感が持っています。

— 猿橋をどう感じていますか？

どの世代も協力し合う良い地域だと思います。しかし、西和賀町そのものが過疎・高齢化の課題に直面しているのも事実です。そういう意味でも、学区としての組織、機能の維持は難しくなってきたと感じます。また、小さい子供を持つ親としては、教育や将来を考えると不安もあります。

— これからやりたいことは？

過疎化は行政だけでなく、地域や私たちの暮らしに大きく影響するものだと感じています。町外から移り住む、町内に残る、こういったことが実現しやすい環境を作っていくことも、私たち住民の役割だと思います。また、町外で暮らしていても、町や猿橋学区を「ふるさと」としてくださる方々が、色々な形で参加、応援できる仕組みづくり、微力ながら協力していければと思っています。



猿橋学区のご長寿

弁天在住
【権兵衛のぼっば】
高橋 静子さん (94)

大正 12 年生れ 94 歳。
9 人兄弟の 7 番目



学校の頃は勉強も

特に苦手な教科も無

く、成績も悪いほうでは

無かったように記憶してい

る。ただ、徒競争だけはいつも

1 番だったと思う。

何歳位で嫁いだかは記憶が曖

昧ではあるが、当時若かった事

もあり、特に難儀な思いをした

記憶とか苦労話とかは無い。

嫁ぎ先の家族も今の時代に比

べたらとても多く、3 世代 6 人

7 人が 1 つ屋根の下で生計を共

にするスタイルであった。

自分の役割は家族の 3 度の食

事の支度やら、野良仕事を中心

の労働であった。とにもかくに

もその頃は、何をするにも体 1 つが資本。草刈といえば鎌、畑仕事には鍬。だったので、『余暇を過ごす』とか『趣味を見つけて楽しむ』という暇は特に無かった時代だったと思う。

食べ物に関しては、特に好き嫌いは無い。食卓に並んだものは何でもおいしく頂いている。多分これが長寿の秘訣なのかも知れない。

最近ではデイサービスなるものに通いはじめたが特におっくうだと思つたことも無い。何処へでも面白くついていける。家庭内では孫が手をひいて車で買い物など、何処へでも連れていってくれる。まあ、多少の心配事といえど今現在、3 人だけの家族になつてしまったことくらい。

いつも穏やかな娘と、孫に寄り添ってもらいながら、1 日いちにちを、大切に生活できていることが長寿への特効薬かもしれない。

ポットわらび

弁天地区営農組合では、6 月 16 日、西ワラビのポット苗定食作業を行いました。これまでは野山に採りに行っていたワラビですが今年から栽培を始めます。畑に雑草抑制のためのビニールマルチを敷き、等間隔で穴を開けて苗を植えました。収穫は 2 年後になります。



きれいに植えられたワラビの苗



みんなで協力して、手分けして。



ガシガシと穴を開けていきます。

堤防草刈り

蛭山河川愛護会では、毎年堤防の草刈りを行なっています。今年も 6 月 16 日に行いました。機材を持ち寄り、少人数の少数精鋭。作業が終わった後は、すっきりした堤防になりました。



あと少しで終わり…。



わさわさと生えている雑草。



綺麗になりました。



下流から見る明治の頃の弁天橋



現在の弁天橋から下流の風景

長瀬野小学校

長瀬野小学校は明治3年に私塾として開校され、明治9年には七内川学校、明治20年には猿橋簡易小学校長瀬野分教場となり、昭和26年に長瀬野小学校となりました。長年にわたり地区の子供達の学び舎として存在しましたが、昭和44年度を最後に閉校し、昭和45年度、新設される猿橋小学校に編入されることとなりました。

(長瀬野小学校記念碑建立記念誌「びれこやまの思い出」より)



運動会の様子



昭和36～37年頃の授業参観風景



旧長瀬野小学校校舎

猿橋小学校

猿橋小学校は明治9年に創立されました。昭和24年に校舎を移転し改築。昭和46年度に長瀬野小学校と統合し、翌年には統合校舎が完成しました。

「全日本よい歯の学校」や「北上・和賀地区書写コンクール」、「社会福祉協議会共同募金運動」等で表彰されることも多く、盛んな活動を行っていましたが、平成23年度、閉校となりました。

(西和賀町立猿橋小学校閉校記念誌「二本杉」より)



平成8年教職員



撮影年不明 猿橋小学校校舎前



昭和31年5月10日満開の桜のもとでの小中連合運動会の様子

沢内第二中学校

沢内第二中学校は、昭和23年に認可されて以降、子供達の成長を支えてきましたが、昭和49年に沢内中学校の実質統合に伴って閉校となりました。

昭和20年～30年代は、小学校は猿橋小学校、長瀬野小学校の2校、中学校は沢内第二中学校の1校でした。運動会は小中連合運動会で毎年桜満開時に開催され、猿橋学区全体が地域のお祭りとして楽しみにしていた記憶があります。



全校生徒による校舎前の除雪作業



沢内第二中学校校舎

なつかし 猿橋学区

野球の強豪校

沢内第二中学校の野球部は、かつて和賀郡大会で準優勝したことがあります。

和賀郡大会とは、現在の西和賀全域と、北上市の一部から花巻市の一部までを含む広域のことで、かなりの校数が出場する大きな大会でした。

沢内第二中学校は、この大会で並みいる強豪をしりぞけ、昭和29年に準優勝に輝いた実績があります。

写真後列中央には泉沢の平沢誠選手が写っています。

当時教えてくれた金盛校長先生(写真後列向かって左)が熱心だったためか、ユニフォームも全員しっかり揃えて出場しています。帽子やアンダーシャツなど寄付して頂いた記憶があります。昭和30年代には、寄せ集めでバラバラのユニフォームだったことから、当時の熱心さが伺えます。

